

【防災研修】 エネジン全社員で東北被災地へ

全社員で東北被災地へ

エネジン 研修通じ防災意識向上

LPガス販売のエネジン（浜松市）は、約20

0人の全社員が東日本大震災で被災した東北で防

災研修を受ける。予算は約1200万円。6月1泊2日をかけて甚大な被害を受けた福島県や宮城県を回り、従業員の防災意識を高める。

同社はLPガス販売のほか、太陽光パネルや家庭用蓄電池・蓄電システムも手掛ける。研修を通じて、社員が「災害へ備える大切さ」を学ぶことで防災ビジネスの強化を図る。

東北被災地の研修は10年ぶり2回目。前回は宮城県を訪れた。今回の研修では同県南三陸町に加え、福島県双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館を訪問する。藤田源右衛門社長は「従業員に人々の生活への影響力の大きさや責任感を感じてほしい」と話す。

静岡県は南海トラフ巨大地震による甚大な被害が見込まれる。22年9月には台風15号が上陸し、大規模な停電や断水が発生した。自然災害の激甚化で人々の防災意識が高まり、藤田社長は「防災関連ビジネスの売り上げは年々大きくなっていく」と説明する。

日本経済新聞に、エネジン全社員が東北被災地で防災研修を受ける記事が掲載されました。エネジンの東北被災地での研修は10年ぶり2回目となります。

地域インフラを担う企業として、全社員の防災意識を高めることを目的としています。

また、今後予測されている南海トラフ地震や、近年の自然災害の激甚化によって、ますます高まる災害に対する備えに関して現地で学び、今後の提案に活かしていきたいと考えています。今後もいざという時に、地域のお客様を守るための備えに全社で取り組んでまいります。

令和5年(2023年)5月2日(火) 日本経済新聞

